

## 第18回： 水質汚濁防止技術の新展開

開催日： 1991年1月31日～2月1日 / 会場： 「北とぴあ」東京都

開催趣旨： 近年、水質汚濁防止技術が新たな展開を示しつつあります。とくに省エネルギー、高負荷運転の可能な嫌気処理技術、あるいは微生物の自己固定化能を利用した処理技術の進歩にはめざましいものがあります。また、適用範囲は限られているものの、膜を利用した生物処理技術や難分解性のCOD成分を含む排水の処理技術も実用化されてきています。本セミナーでは、急速に進展しつつある新しい水質汚濁防止技術の開発動向や利用の現状について紹介する予定です。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 嫌気処理技術の新展開（三上栄一／工技院）
- 生活雑排水対策技術の新展開（須藤隆一／東北大・国環境研）
- し尿処理における膜の応用（眞柄泰基／国公衛院）
- 排水処理における自己固定化法の利用と展望（高橋正宏／建設省）
- 我国における UASB 法の利用動向（依田元之／栗田工業株）
- 分離膜を利用した生物処理技術の利用動向（小林浩志／三機工業株）
- 新しい湿式酸化方式による排水再生利用技術（原田吉明／大阪ガス株）
- 新しい汚泥処理技術—油化—（鈴木明／オルガノ株、横山伸也／工技院）